

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

	国語		算数	
	5年時	6年時	5年時	6年時
H27 入学 現5年	67.1 (1.03)		62.8 (0.96)	
H26 入学 現6年	68.3 (1.03)	66.0 (1.03)	70.2 (0.99)	66.0 (1.00)
H31 正答率の全国比		(1.03)		(0.99)

◎5年時は佐賀県学習状況調査、6年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段()は、県平均を1としての比較。

◎「H31 正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

○現5年生

国語は県平均を上回り、算数は県平均とほぼ同じであり、おおむね良好な学力状況である。特に国語の「読む」は県平均を5.4ポイント上回り、叙述を基に登場人物の気持ちの変化を捉えたり、事実と意見とを区別して読んだりすることがよくできている。逆に、算数の「考え方」は県平均を6.7ポイント下回り、示された説明を解釈して問題を解くことに難点があり、指導に重きを置かなければならないところである。

○現6年生

国語は県平均を上回り、算数は県平均と同じであり、良好な学力状況である。5年時と比較すると国算ともに同等であり指導の成果と言える。特に算数の「知識・理解」は県平均を5.5ポイント、全国平均を4.9ポイント上回り、数量や図形についての知識・理解がよくできている。特に落ち込んでいる観点は無い。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- ・「めあて」から「まとめ」「振り返り」に至る一連の学習過程をどの教科においても基本とする。児童自らが問題解決していく過程を大切にするとともに、学習規律を身に付けさせて、落ち着いて授業に臨ませる。
- ・ICT機器の充実という環境に恵まれている。電子黒板、タブレット等、今後も大いに活用した指導を推進する。そのため、ICT利活用の職員研修を設定して、機器を有効に活用した授業実践に努める。
- ・算数科を中心に、TTや少人数指導を継続し、個別の対応の機会を増やして理解度を深める。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

- ・6年目となる全校一斉の「家庭学習ノート」を継続して取り組む。書き方や点検方法の見直しを図り、よく書いている児童を賞賛したり、手本となるノートを掲示したりする。全学年このノートの取組が習慣となっており、学年が上がるにつれて内容が充実し、要領よく書けるようになってきている。
- ・月1回火曜6校時に、4・5・6年生の「学力向上タイム」に全職員で取り組む。4月調査や12月調査の過去問を解かせ、解説をする。問題形式に慣れさせるとともに、じっくり問題に取り組む姿勢を育む。
- ・週3回の「花まるタイム」により、計算力や視写力をつける。

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

	国語		算数	
	5 年時	6 年時	5 年時	6 年時
H27 入学 現 5 年	67.1 (1.03)		68.7 (1.05)	
H26 入学 現 6 年	64.5 (0.97)	63.0 (0.98)	67.7 (0.96)	63.0 (0.95)
H31 正答率の全国比		(0.99)		(0.95)

- ◎ 5 年時は佐賀県学習状況調査、6 年時は全国学習状況調査の推移。
- ◎ 上段は平均正答率、下段()は、県平均を 1 としての比較。
- ◎ 「H31 正答率の全国比」は全国平均を 1 としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

《 生活習慣 》

「普段、1 日当たり 2 時間以上、テレビやビデオ・DVD を見ている」と回答している 5 年生児童は 48.1% (県 51.1%) であった。また、「普段、1 日当たり 1 時間以上、テレビゲームをする」と回答している 5 年生児童は 47.6% (県 50.5%) であった。

《 学習習慣 》

「学校の授業時間以外に、普段、1 日当たり 1 時間以上、勉強をしている」と回答した児童は、5 年生が 58.6% (県 58.5%)、6 年生が 65.1% (県 64.4%) であった。また、「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1 日当たり 2 時間以上、勉強をしている」と回答した 5 年生児童は、25.0% (県 24.5%) であった。

家庭学習の内容を見ると、「自分で計画を立てて勉強している」という質問には、5 年生の 69.3% (県 66.5%)、6 年生の 58.4% (県 73.5%) が「している」(「どちらかといえばしている」を含む)と回答していた。

「学校の授業時間以外に、普段、1 日当たり 30 分以上、読書をしている」と回答した児童は、5 年生が 46.2% (県 45.9%)、6 年生が 38.2% (県 40.8%) であった。

「学校の授業の予習をしている」という質問には、5 年生の 46.1% (県 45.5%) が「している」(「どちらかといえばしている」を含む)と回答していた。

《 授業での学び方 》

学び方については、校内研究で取り組んでいる算数科に関連する質問事項を記述する。

「算数の勉強は好きだ」と回答した児童は、5 年生で 76.0% (県 67.5%)、6 年生で 52.6% (県 63.9%) であった。「算数の授業の内容はよく分かる」と回答した児童が、5 年生 89.4% (県 84.2%)、6 年生 75.3% (県 83.4%) だった。

「算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている」と回答した児童が、5 年生の 79.8% (県 82.7%)、6 年生の 75.3% (県 85.1%)、「算数の授業で、問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている」と回答した児童が、5 年生の 83.7% (県 88.1%)、6 年生の 86.5% (県 89.0%)、さらに、「算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える」と回答した児童が、5 年生の 74.1% (県 75.6%)、6 年生の 67.4% (県 78.9%) であった。

《 学習状況調査の結果から 》

6 年生の国語では、全体の正答率は県とほぼ同じである。「相手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って、自分の理解を確認する質問をする」、「相手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる」、

及び「ことわざの意味を理解して自分の表現に用いる」が県の正答率より5ポイント以上低かった。算数では、「何倍かを読み取る」問題、及び「単位量当たり」の問題が県の正答率より5ポイント以上低かった。また、「示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述できる」問題の全体の正答率が低かった。

5年生の国語では、「話す・聞く」観点で県の正答率を下回っている。特に「理由を明確にして、話す内容を構成する」問題の正答率が低い。また、「叙述を基に、登場人物の気持ちの変化を捉える」問題の全体の正答率が低かった。算数では、全体の正答率は県を上回っていたが、「面積についての感覚を身につけている」、「示された情報を基に、具体的な根拠を挙げて説明する」問題の正答率が県よりも5ポイント以上低かった。

5・6年生ともに、「条件に合わせて文章を書くこと」を苦手とする傾向にある。国語では「話す・聞く」、算数では「数量関係」の領域に、やや課題が見られる。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

1 主体的な学びの育成

教材・教具の工夫をしたり、ICT機器を利活用したりすることで、児童の興味・関心を高め、学習意欲の向上を図る。児童自身が学習内容を理解できているかどうかを明確にして授業に臨ませる。そのために、スマイル学習(動画)やプリント学習、教科書の音読などの予習学習を取り入れる。そうすることで、授業に対する学習意欲の向上や学習に主体的に取り組む態度の育成を図る。

2 数学的な見方・考え方の育成

算数科の授業では発展問題に取り組ませる。発展問題は、これまでに蓄積してきた問題を再検証したり、児童の実態に応じて作り変えたりしながら、より効果的に数学的な見方・考え方を働かせ、協働学習に取り組めるようにする。教師は、児童にどのような見方・考え方を身に付けさせたいかを明確にし、授業づくりをする。

3 表現力の育成

表現力を身に付けさせるために、言語活動を充実させる。まず、友だちの考えを最後まで聞くことや、分からないことを伝えることなどが確実にできるようにする。また、発表する際には、教科書に書かれている文章や資料、図などに立ち返らせ、根拠や理由を明確にし、正確な表現ができるようにしていく。的確に表現できた児童を賞賛したり、教師がモデルを示したりすることで表現するための技能を身に付けさせる。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

1 学力向上対策研修会の実施

県教育センターより講師を招き、県学習状況調査の結果についての誤答傾向の把握・分析・考察を行い、本校の課題を明確にした。各学年が今後の取組を決定し、改善策について全職員で共通理解を図った。定期的に振り返りをしながら、児童の学力向上や職員の指導法改善・充実に努めていく。

2 学級づくりの充実に向けての取組

月曜日の朝の特設の時間(学級タイム)に、グループエンカウンターの要素をもつミニゲームなどを行い、学級への所属感や安心感を高めていく。また、県教育センターより講師を招いてQ-Uの結果分析を行った。協働的な学習が活性化するように、今後の学級づくりに生かしていく。

3 読書活動の推進

各学年に年間目標冊数を設定し、読書活動を推進する。協働学習に必要な語彙力や表現力などの向上を図るとともに、文章を読み取ったり題意を理解したりする力を付けていく。

4 家庭学習の充実

全校で最低限取り組ませたいことの共通理解を図り、児童の発達段階に応じた家庭学習を工夫する。保護者の協力を得ながら継続して取り組ませることで、家庭学習の習慣化を図る。

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

	国語		算数	
	5年時	6年時	5年時	6年時
H27 入学 現 5年	62.1 (0.95)		62.5 (0.96)	
H26 入学 現 6年	61.6 (0.92)	60 (0.94)	67.9 (0.96)	63 (0.95)
H31 正答率の全国比		(0.94)		(0.95)

◎5年時は佐賀県学習状況調査、6年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段()は、県平均を1としての比較。

◎「H31 正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

【5年】

(学習状況調査より)

国語

知識・理解・技能については「おおむね達成」と比較し、4ポイント上回っている。漢字の読み書きについてはよく理解できているが、ローマ字については定着していない部分がある。全体としては「おおむね達成」に達しているものの、全領域とも県の正答率を下回っている。特に、内容や心情を読み取る点において、「おおむね達成」よりも15.8ポイント下回っている。書いてある内容から事実や登場人物の心情を捉えたり、事実と意見を区別したりすることが課題である。また、記述で答える問題について、無回答も多いことから、自分の考えを書き表すことに抵抗を感じていることが伺える。

算数

全体では「おおむね達成」を上回っており、技能については「おおむね達成」よりも8.6ポイント上回っており、四則計算は身につけていると考える。しかし、思考力を問う「考え方」については、「おおむね達成」からは8.8ポイント下回っている。具体的な根拠を挙げて説明する際、解答するための事実を捉え切れなかったり、事象同士を関係付けて考えることができなかったりすることが伺われる。これらの問題は、前学年の学習内容を活用しながら取り組むことが要求されているため、これまでの既習事項の定着が課題であると考えられる。

(意識調査より)

- ・ 「朝食をとる」「決まった時間に寝る」といった基本的な生活習慣については多くの児童は身につけているが、10%程度の児童は午後11時以降に就寝と回答し、該当児童の多くが、翌日の学習に影響していることも考えられる。月曜から金曜に3時間程度、テレビやゲーム、インターネット等の機器に触れている児童が全体の30%程度いる。また、使用時の約束をしているが、守っている児童は半数以下である。図書館の利用回数は県平均に比べ多いが、家庭等で読書をしている児童は比較的少ない。また、読書時間が30分以下の児童が60%程度いることから、読書習慣が十分に身につけているとはいえない。
- ・ 学習において、どの教科においても学習のめあてが示されていて、見通しを持った学習がなされて

いる。また、どの教科も「好き」と回答した児童が多い。しかし、思考を伴い、自分なりの考えをもちながら学習を進めることに対し、苦手意識を感じている児童が多い。理由を付け加えたり、順序を考えながら筋道を立てたりして話すことに難しさを感じている児童もいる。友達の前で自分の考えを発言する機会を設定していく必要があると思われる。ICT機器を活用するなどの工夫した発表方法もよりいっそう充実させ、発言することへの抵抗を減らしていきたいと考える。

- ・ 家庭学習について、学習時間が1時間以内の児童が、平日で43%、休日では54%いると多く、家庭学習の時間は十分とはいえない。多くの児童は「宿題をする」ことは定着している。これは、ゲームやテレビ視聴の時間となどの生活習慣と大きく関係していることから、基本的な生活習慣の確立をさらに定着させていきたい。多くの児童が予習を中心とした学習だか、自主的に予習・復習に取り組んでいる児童も3割程度見られる。

【6年】

(学習状況調査より)

国語

すべての領域において県の正答率を下回っている。特に「書く」ことについては全国に比べ8.8ポイント、県では8.7ポイント下回っている。たずねられている課題から、必要な事項を抜き出し、目的や意図に応じて、自分の考えの根拠を明確にし、まとめて書くことが課題である。また、無回答が5.5%見られることから、書くことに対する抵抗を減らす取組を行うことも必要である。

算数

全体では、全国、県ともに正答率の比較では下回っている。特に図形領域については、8.4ポイント下回っている。図形の性質や構成要素に着目し、ほかの図形に当てはめて考えるといった既習事項を活用する力の育成が必要である。記述する問題についても、これまでの学習を想起し、適応させながら課題に取り組むといった学習を進めていくことが課題である。

(意識調査より)

- ・ 「朝食をとる」「決まった時間に起きる、寝る」といった基本的な生活習慣については多くの児童は身につけている。しかし、就寝時間等が遅く、翌日の学校生活に影響がある児童もいる。将来の夢や目標を持っている児童は多いが、20%程度の児童はもてていない。しかし、学校内外を問わず、失敗を恐れず前向きに取り組んだり、何かをやり遂げることに喜びを感じたりする経験がある児童が多い。また、「困っている人に対し、助ける」と回答した割合は95%で、「人の役に立ちたい」と感じている児童も96%いる。
- ・ 授業を中心とした学習において、国語は40%、算数25%の児童が好きではないと回答している。国語では、80%の児童が自分の考えを書いたり、話したりという活動には取り組んでいるが、相手意識を持って取り組もうとしている児童は60%と少ない。算数では、学習内容が普段の生活に活用できる場面を多く経験しているために、学習においても、さまざまな解決方法に取り組んだり、最後までやり遂げようとしたりする児童の割合が県や全国平均を上回っている。
- ・ 家庭での学習について、計画的に学習に取り組んでいる割合は70%程度である。学習時間は、半数の児童が2時間程度であるが、全くしないという児童もいる。また、読書時間については、読書自体は好きで、全国平均に比べ、読書時間や図書館利用回数は多い。今後は、新聞などの身近にある資料を活用した学習に取り組んでいく必要がある。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- ・学習における「静」の時間を意識した授業実践に取り組む。
- ・学んだことを自分の言葉で表現させる場として、キーワードを提示して、「ふりかえり」の時間を設定し、キーワードを使って記述させる。
- ・授業のふりかえりや毎日の日記やノート、ワークシートの記入など、適宜、書く活動を取り入れて文章表現に慣れさせる。また書いた作品を掲示して読み合うことで関心を高めていく。また、全校共通したノート指導の徹底を図る。
- ・西部型授業を基本とした学習過程を意識する。
- ・自主学习ノートや予習に取り組んだ学習内容を紹介し、家庭学習へ意欲付けにする。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

- ・「静」の時間、場を学校生活の中に設定し、児童、教師ともに、より一層の意識の徹底を図る。
- ・本の読み聞かせなどで読書の楽しさを味わわせ、本に親しむ機会を増やす。また、ジャンルに偏りがでないような声かけなど、読書習慣の工夫を図る。
- ・学校行事や学級活動等の中で、子どもたちの自主活動を奨励し、補助的な支援をしながら自己肯定感、自己有用感を高めたり、達成感を味わわせたりする。

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

	国語		算数	
	5年時	6年時	5年時	6年時
H27 入学 現5年	66.7 (1.02)		49.4 (0.76)	
H26 入学 現6年	67.9 (1.02)	74 (1.16)	70.4 (1.00)	66 (1.00)
H31 正答率の全国比		(1.16)		(0.99)

◎5年時は佐賀県学習状況調査、6年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段()は、県平均を1としての比較。

◎「H31 正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

1 学習状況調査の結果から

第6学年の全国学習状況調査の結果では、国語科において全国や県よりも高い正答率となった。算数科は、全国や県とほぼ同じ正答率となった。問題別では、国語科の「相手に分かりやすく伝えるための記述の工夫」がやや低かった。算数科では、「台形の識別」「計算の決まりを基に他の問題に活用する」「単位量あたりを基に求め方や答えを記述する」等が全国や県に対してやや低かった。記述式の問題では、いくつかの条件には適合するものの、必要な条件を満たしておらず、正答に後少し足りないという問題もいくつかあった。正確に記述するといった力がさらに必要である。

第5学年の佐賀県学習状況調査の結果では、国語科においては、県の平均とほぼ同じであった。算数科においては、県に対して0.76の達成度と、県よりも低い結果であった。内容を見ると、「小数の加法」「わり算の筆算の仕方」「複合図形の面積」等が低い結果であった。「数と計算」等の基礎基本の着実な習得が課題である。

2 意識調査の結果から

第6学年の意識調査の結果では、「朝食を毎日食べる」「同じ時刻に起きる・寝る」「学校の決まりを守る」等が高い傾向にあり、基本的な生活習慣が身についている。学習については、国語科や算数科の学習が「好き」「将来、役に立つ」の割合は高いものの、「自分で考え、問題解決に取り組む」「考えが伝わるよう工夫する」「話し合いを通じて考えを広げる」等の項目が低く、学習に対する主体性・学び方の面での指導が必要である。特にそれぞれの考えを發表し合い、高めていく協働的な学習の充実が重要である。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

今年度の学力向上対策シートで掲げた重点内容は、次の2つである。

1つ目は、継続して西部型授業に取り組むこと。授業中の「めあて」や「まとめ・振り返り」については、児童に提示したり、高学年では、児童の意見を取り入れながら一緒に設定したりしていく。ノート指導の中で児童に意識させるために、「めあて」を青枠「まとめ・振り返り」を赤枠で囲むようにしている。

2つ目は、書く活動の充実である。西部型授業とも連携し、自分の考えをノートやワークシートに書く場を積極的に取り入れていく。また書いたことを発表に生かし、グループや全体の場での練り合いを通してそれぞれの考えを高めていきながら、協働的な学習の充実を図ることが大切である。練り合いでは、児童の考えの予測、発表の取り上げ方の計画、話し合いの視点の持たせ方など十分な教材研究が必要となってくる。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

1 家庭学習の充実

若木小学校作成の「家庭学習の手引き」に基づき、家庭学習の内容や学習時間等についての共通理解を図る。また、自主学習のやり方のヒント等も示しながら、高学年においては週1回程度自主学習に取り組みせたい。さらに小中連携とも関連し、家庭学習強調週間を年に3回程度設定し、自主学習に積極的に取り組む機会としたい。

2 読書の充実

家庭での読書を奨励し、読書も家庭学習の1つとして位置づける。週末において、読書に取り組むよう声かけを行う。また、これまでに行ってきた「家読」の方法を見直し、親子での読書活動の充実を図りたい。

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

	国語		算数	
	5年時	6年時	5年時	6年時
H27 入学	73.6		68.0	
現 5 年	(1.13)		(1.04)	
H26 入学	66.8	69	70.8	64
現 6 年	(1.00)	(1.08)	(1.00)	(0.97)
H31 正答率の全国比		(1.08)		(0.96)

◎5年時は佐賀県学習状況調査、6年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段()は、県平均を1としての比較。

◎「H31 正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

○ 5年は、国語、算数とも県平均を上回っている。国語においては、話す・聞くと書く領域は県平均よりも10%以上正答率が高く、スピーチや日記指導などの成果が表れている。一方、読む領域は、正答率が県平均を2.7%上回ってはいるものの、物語文の読み取りに課題が残った。登場人物の行動や気持ちの変化をとらえることができていない児童が多くいた。

算数においては、数と計算の領域に課題が残った。わり算の筆算や計算を根拠とし理由を説明することができていない児童が多くいた。一方で数量関係の領域は、正答率が県平均を7.7%上回っている。()を用いた式の計算やグラフの読み取り、四角形の周りの長さの説明などの問題の正答率は9割と高く、具体物やICTを活用した学習の成果だと思われる。

○ 6年は、国語では、全国平均を8%上回り、算数は、4%下回った。国語においては、言語についての知識・理解・技能で、正答率が全国平均を9%上回っていた。特に、漢字の正しい使い方や接続詞の使い方が高い正答率であった。また、話すこと・聞くことの領域は、正答率が全国平均を5%上回っていた。話し手の意図を捉えながら聞いたり、質問したりする問題での正答率が高かった。一方で書くことの領域は、正答率は全国平均とほぼ同じであるが、目的を捉えて書く問題や理由を明確にまとめて書く問題において正答率が低くなっていた。

算数においては、数学的な考え方で、正答率が全国平均を下回っていた。特に、資料の特徴や傾向を関連付け理由を記述する問題や、場面の状況から求め方を記述する問題での正答率が低くなっていた。自分の考えを整理し記述することに課題が見られた。

○ 意識調査では、5・6年ともに、9割以上の児童が「友達に会うのは楽しい」と答えている。また、ほぼ9割の児童が、地域の行事に参加している。これらの質問項目は、県・全国平均を上回っているよい結果であった。また、6年生では、「読書は好きですか」「新聞を読んでいますか」の質問でともに全国平均を上回っていた。朝読書の取り組みや、毎週行っている新聞スクラップの取り組みの成果だと考えられる。一方で、「授業中の発表の意欲があるか」「発表の工夫をしているか」の質問では県・全国平均を下回っていた。また、6年生では、授業での解き方・考え方をノートに書くことに関して、約29%があまりできていないと答えるなど課題が残った。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- 1 全ての教科領域において、1時間の授業のはじめに、話の聞きく時の態度や話し合いの心構えである「共感力のものさし」の意識付けを行い、児童が協働的な学びへ向かえるよう全職員で取り組む。
- 2 「友だちタイム」において、以下の点を強化する。
 - ・協働的な場面において、ICT機器を利活用し、児童の考え、認識、姿のギャップを視覚化し、対話へつなげる手立てを取り入れる。
 - ・論点を明確にするために、比較、分類、関連付けできる課題を提示する。
- 3 学習の最後には、振り返りを書くようにする。その際、振り返りのポイントを提示し、協働的な学びの場での対話を通して、分かったことや考えたこと、自分の考えの変容や新たな発見などを言語化し、学びを深め次の学習へつなげられるようにする。
- 4 物語文の学習では、登場人物の行動や情景描写などの表現を手掛かりとさせ、その時の心情をとらえさせる。
- 5 算数では、自分の解き方・考え方について、根拠を基に伝えたり、ノートに書き表したりする場面を意図的に増やす。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

- 1 花まるタイムや思考力を培うなぞペー授業の効果も伺えた。さらに、児童の学習の定着状況に応じて、サボテンの教材だけでなく、担任作成の教材を活用し、弱点の克服を行う。
- 2 意識調査より「地域の行事に参加している児童」は85%以上で、県の平均を10%以上上回る結果を出している。また「朝食を毎日食べている児童」は、100%で、このことから、家庭や地域の教育がしっかりしていることが伺える。全校朝会や保護者会などでも、このような良いところも紹介することで、児童の自己肯定感や保護者の意識をより高めていく。
- 3 家庭学習については、全職員で宿題の量や質、自主学習の内容などの共通理解を図り、発達段階に応じた学習時間を確保させる。内容や量については、ICT機器やドリル、プリント等を活用し、個別に補充指導をとりながら、基礎的・基本的な知識の定着を図る。調査の設問別到達状況において習得できていない内容や児童が苦手としている内容についても、日頃から繰り返し復習させていく。
- 4 家庭学習強化週間を年3回設定し、自主学習の良い例と家庭学習に意欲的に取り組んだ児童を紹介することで自主学習を推進していく。
- 5 児童に、今回の調査結果に見られる成果と課題を知らせ、学力向上に向けて、今後どんなことに気をつけて学習に取り組めばよいか、個人で目標を立てさせる。

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

	国語		算数	
	5年時	6年時	5年時	6年時
H27 入学 現5年	60.4 (0.92)		58.7 (0.90)	
H26 入学 現6年	63.9 (0.96)	55 (0.86)	66.0 (0.93)	53 (0.80)
H31 正答率の全国比		(0.86)		(0.80)

◎5年時は佐賀県学習状況調査、6年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段()は、県平均を1としての比較。

◎「H31 正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

○学習状況調査より

- ・5年生の正答率は、国語「知識・理解、技能」が県正答率より上回っていて、算数「技能」が県平均と同等である。一方、国語「話す・聞く」「書く」「読む」、算数「考え方」「知識・理解」は県平均を下回った。詳しく内容を見ると「漢字の読み・書き」「主語の捉え方」や算数「分数の計算」「折れ線グラフ」が県平均を上回っているが、国語「話し合いの進め方」や算数「活用に関する問題」が県平均より下回っている。
- ・6年生の正答率は、国語、算数ともに県平均を下回っている。特に、課題が見られるのは国語「話す・聞く」算数「数量や図形についての技能」である。
- ・上記のことより、5年生は漢字や計算など継続的に努力を要するものは県平均同等もしくはそれ以上である。6年生は、学力の二極化の傾向が見られる。

○児童質問紙より

- ・以下の項目は、5、6学年とも県平均より上回った主な内容である。※()内は、県平均
 「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」では、5年76.9%(74.2%)、6年85.0%(76.9%)である。
 「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」では、5年61.5%(57.9%)、6年85.0%(65.6%)
 「今住んでいる地域の行事に参加している」では、5年61.5%(44.5%)、6年75.0%(49.5%)である。
- ・以下の項目は、5、6学年とも県平均より下回った主な内容である。※()内は、県平均
 「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」では、5年69.2%(71.4%)、6年65.0%(73.1%)
 「算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか」では、5年46.2%(60.2%)、6年55.0%(62.9%)である。
- ・上記より、地域の行事への参加状況は、保護者や地域の方々の協力もあり、昨年度に引き続き県平均を上回ることができている。しかし、授業中に学習したことを日常生活に活かしたり、学習する意味を理解したりしている児童が少ない。授業中の学び合い活動等を通して、児童が考えを交流し、お互いを高め合う状況を作り出すことで、魅力ある授業作りと主体的、対話的で深い学びにつながる指導法に努めていきた

い。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

1 全学年で縦のつながりを重視した指導法

・「西部型授業」の学習過程に沿った授業実践として、以下の「必須5項目」を確実に行っていく。

① つかむ ② 見通す ③ 考える ④ 学び合う ⑤ 振り返る

・校内研究の研究主題である「自分の考えをもち、豊かに学び合う児童の育成～子どもの思考を可視化させる指導の工夫～」をもとに、表現力に焦点を当てた実践に取り組んでいく。

2 児童の表現活動を重視した指導法

・ICT等を活用して、自分の考えを表現する場の設定に努める。

・児童が自分の考えを表現する手立てとして、式・文・図・学習用語を使った書き表し方、話型を使った表現方法を適宜指導していく。

・理由や根拠（条件）をもとに、読む・書く・話せるような学習活動を仕組んでいく。

3 教科における具体的な指導法

・板書を全校で統一し、授業の流れがノートに残る板書を心がける。

・「なぜ?」「どうして」と思えるような課題提示の工夫を行う。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

1 学力向上対策研修会の実施

夏季休業中に、全国学力調査・県学習状況調査の結果分析から、本校の課題を見つける研修会を行った。その後、改善策について話し合いをもち、全職員で以下のことを共通理解した。

① これからの共通した取組

～上学年グループ～

○ 「なぜ」が言える雰囲気作り 授業作り

○ 理由・根拠（条件）をもとに、読む・書く・話せる子どもにする→3Rの徹底

～下学年グループ～

○ 基礎・基本の定着

○ 体験活動の重視

② 個人としての具体的取組

・自分が所属する学年グループの取組に関連した取組を各自決定した。

③ これからに向けて

・決定した取組を、全員で、継続し、徹底していく。

・取組の状況を定期的に振り返るようにする。

2 家庭学習の充実

家庭学習の質的改善を目指して、宿題（作文）で条件を与えることや、自学ノートの取り組み方の確認をした。

3 補充指導

朝の時間や放課後に、能力に応じた個別指導を行っていく。

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

	国語		算数	
	5年時	6年時	5年時	6年時
H27 入学 現5年	64.3 (0.98)		66.4 (1.02)	
H26 入学 現6年	73.6 (1.11)	67 (1.05)	74.5 (1.06)	63 (0.95)
H31 正答率の全国比		(1.05)		(0.95)

◎5年時は佐賀県学習状況調査、6年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段()は、県平均を1としての比較。

◎「H31 正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

- ・6年生は、国語では県・全国の平均正答率を上回ったが、算数では下回った。
- ・6年生は、昨年(5年時)と比較して、個人差が大きくなってきたことで、全体の平均が下がった。
- ・5年生は、県の平均正答率と比べて若干の上下はあるが、ほぼ県と同じくらいのレベルである。
- ・5年生も6年生も、活用問題や記述式の問題ができていなかった。
- ・問題文が長くなったり複雑になったりすると、しっかり読み取ることができずに間違えることが多い。
- ・意識調査では、全国と比較して、読書がよくできているという結果が出ていた。
- ・意識調査では、全国や県と比較して、同程度か良い回答が多く、気になる点はあまりなかった。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

(1) 問題文を読み取る力をつける。

- ・複雑な問題や長い文章題、資料を読み取る問題などに数多く挑戦させる。
- ・学年に応じた内容の本や、読み応えのある内容の本など、「根気強く読む」経験も時々させたい。

(2) 活用力・記述力をつける。

- ・文章で説明したり、言葉で説明したりする機会を授業の中に多く取り入れていく。
- ・活用力をつける問題、記述式の問題などに挑戦する時間を設ける。

(3) 学習課題や発問を工夫し、思考・判断させる授業を目指す。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

(1) 家庭学習の充実に取り組む

- ・児童の実態を調べ、保護者の協力を得ながら、家庭学習の量・質両方について改善していく。
- ・「学力向上だより」を通して、現状を保護者に伝え、保護者の意見も聞きながら双方向の情報交換を行っていく。

(2) 花まるタイムを活用し、計算力・語彙力など基礎的な力の向上を目指していく。

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

	国語		算数	
	5年時	6年時	5年時	6年時
H27 入学	67.5		68.4	
現 5年	(1.03)		(1.05)	
H26 入学	78.4	71	79.2	71
現 6年	(1.18)	(1.11)	(1.12)	(1.08)
H31 正答率の全国比		(1.11)		(1.07)

◎5年時は佐賀県学習状況調査、6年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段()は、県平均を1としての比較。

◎「H31 正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

- 国語、算数ともに全国平均・県平均を全ての項目で上回っている。特に、算数科の図形・加法と乗法の混合した計算は、全国平均を大きく上回っている。
- 学年で見る平均は、全国平均・県平均を全ての項目で上回っているものの、上位層と下位層に差がある。個別の指導・支援を必要とする児童もいる。
- 同音意義の熟語に関する漢字の書き取りの正答率が低い。
- 読書時間は長い傾向にある。算数のノートは、全員がしっかりとっている。
- 自己肯定感が低い傾向にあり、挑戦することに対して、臆している様子が見られる。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- 国語以外の教科の中でも、漢字の意味を意識しながら使わせるために、自分の書いた文を読み返す習慣をつける。
- 授業の「考える」段階で言葉を使って説明する時間を確保し、「考え合う」段階で多くの説明の仕方に触れさせる。もう一度、自分で説明する時間を設ける。
- 自分の考え等を発表する機会を多く設け、自信をつける機会にする。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

- 家庭学習の日記や日頃から書く文章にも、既習の漢字を意識して使わせる。
- 家庭学習や「花まるタイム」等で、基礎的計算問題に継続して取り組ませる。
- 学校生活の様々な場面で、全校児童の前に立って発表する機会をつくり、やり遂げさせるようにする。

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

	国語		算数	
	5年時	6年時	5年時	6年時
H27 入学 現 5年	71.7 (1.09)		65.8 (1.00)	
H26 入学 現 6年	70.9 (1.06)	57 (0.89)	68.0 (0.96)	67 (1.01)
H31 正答率の全国比		(0.89)		(1.00)

◎5年時は佐賀県学習状況調査、6年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段()は、県平均を1としての比較。

◎「H31 正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

【学習状況調査】

- ・国語科では、漢字やローマ字の読みは習得ができているが、正しく書くことはできていない。
- ・「読むこと」の領域は、「叙述を基に、登場人物の気持ちの変化や心情についての描写を捉えたりすること」や、「事実と意見とを区別して読むこと」について課題が見られた。
- ・算数科では、基礎的な計算の技能はよく身につけているが、活用問題の正答率が低い。問題文に示された情報を基に、具体的な根拠をあげて求め方を説明することに課題が見られた。
- ・国語科、算数科ともに、記述式の問題の正答率が低く、自分の考えをまとめたり、条件に合わせて文章を書いたりすることが課題である。

【意識調査】

- ・大半の児童は、基本的な生活習慣（「毎日朝食をとる」「同じ時刻に就寝する」「同じ時刻に起床する」）は定着している。定刻に就寝、起床をしていない児童は約20%で、県や全国平均に比べやや高い。
- ・「自分にはよいところがある」とは思えない、「先生は自分のよいところを認めてくれている」とは思えないと感じている児童は、ともに32%で、県や全国平均に比べやや高い。
- ・一日あたり30分以上読書をする児童は約40%で、県や全国平均と変わらない。「全く読書をしない」児童が21.6%で、県や全国平均より多く、読書量に個人差が見られた。
- ・新聞を「ほとんど、または、全く読まない」児童は67.6%で、県や全国平均に比べ高い。
- ・家庭学習については、平日の学習時間が1時間以下であった児童が27%で課題が残る。1時間以上学習をする児童の割合は73%で、県や全国平均に比べ高い。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- 「授業づくりのステップ1・2・3 vol.1」活用し、「めあて」や「まとめ」の提示、「ふりかえり」「書く活動」「話し合い活動」など、授業に、全校で共通した学習過程を取り入れ、指導方法の改善に努める。
 - ・「授業づくりのステップ1・2・3 vol.1」チェックシートを用いて、毎月、教師自身が自分の授業について振り返りをし、授業の質をさらに向上させる取り組みを行い、児童の学力向上に努める。
 - ・毎月の振り返りを職員で共有し、各学級の取り組みの参考にして実践に活かす。

- 問題文で、何を問われているのかを的確にとらえさせるために、文章問題に線やしるしを書き入れたり、図に表したりすることを全学年で取り入れる。授業で繰り返し指導し定着させる。

- 条件に合わせて書く活動を意図的に授業の中に取り入れ、児童の書くことの抵抗感を少なくする。
 - ・条件に合わせて文章を書く、振り返りを書く、まとめを書く活動を、授業に多く取り入れる。
 - ・全ての教科において、「条件に合わせて自分の考えを書く」活動を、意図的、計画的に授業に取り入れる。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

- 家庭学習の充実を図り、児童によりよい生活習慣や学習習慣を身につけさせる。
 - ・家庭学習ノートに、その日学習したことの復習として、1～2ページまとめさせる。全校で形式をそろえ、毎日継続させる。家庭からのサインをもらい、提出確認を全職員でしていく。
 - ・「学校だより」「八束穂」(学習部だより)を定期的に発行し、地域や保護者との連携を図る。また、児童の家庭学習ノートを紹介し、保護者の啓発、家庭学習の充実を図る。
 - ・各学年で家庭学習時間を設定し、生活チェックや学習時間、ノーテレビ・ノーゲーム等の実施について、調査をする。「やまびこカード」記録した「やまびこカード」の振り返りを行い、家庭学習の定着を図る。
 - ・学習状況調査で誤答の多かった問題を、宿題や自主学習等で繰り返し取り組ませる(5・6年)。

- 毎日の読書を奨励し、集中して文章を読むことができるようにする。
 - ・一日あたりの読書量を設定し、学校での朝読書や家庭での読書などを充実させる。「全く読書をしない」児童が0になるようにする。
 - ・PTA 母親部の読み語り、給食待ち時間の読み聞かせなど、読み聞かせをする場を設定し、本を好きになる児童が増える環境作りを行う。

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

	国語		算数	
	5年時	6年時	5年時	6年時
H27 入学	62.9		69.1	
現 5 年	(0.96)		(1.06)	
H26 入学	73.8	67	76.5	70
現 6 年	(1.11)	(1.06)	(1.08)	(1.06)
H31 正答率の全国比		(1.05)		(1.05)

◎5年時は佐賀県学習状況調査、6年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段()は、県平均を1としての比較。

◎「H31 正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

【現5年生】

・算数は県平均同等、国語は県平均を下回っていた。無回答率が高く、後の設問まで時間内にたどり着くことができていない児童もいた。特に、国語、算数ともに記述問題の無答が多かった。

《国語》

○「書く」の正答率は県より7.2ポイント上回っている。目的に沿って分かりやすい表現を用いて回答することができた。

▽ローマ字の記入の仕方を忘れ、正しく表記できない児童が多かった。

《算数》

○「技能」の正答率は82.3ポイントで、「十分達成」に到達するところである。小数や分数の場合の加減乗除は確実に解ける児童が多い。

▽1mが100cm、1cmの100個分の認識がない。量感を身につけさせることが課題である。

▽記述問題では、書き進めるにつれて文がねじれている誤答が目立った。

【現6年生】

・国語、算数ともに県平均を上回り良好な状態である。国語は昨年度より数ポイント落ちているが、県や全国と同等であることがわかる。

《国語》

○「書くこと」は全国値を2.1ポイント上回っている。「書くこと」に対して抵抗なく、自分の考えや適切な解答を記入できている。

▽全国や県の正答率が高いが、同音異義語「タイショウ」「カンシン」の誤答が多い。

《算数》

○「図形」領域は全国値より6.6ポイント上回っており、図形の定義や性質の理解は高かった。また、「数学的思考方」は全国値より5.5ポイント、「記述式」は全国値より4.5ポイント上回っており、自分の考えをもち解答できた。

▽「一人あたり」や「何m分」といった基準があいまいで、何を求めなければならないかを理解していない児童が多い。

【意識調査(5、6年)】

- ・家庭学習については、5、6年共に「宿題をしている」と答えている。学習時間については、「1日あたり1時間以上」と答えた児童は、5年生81.9%（県58.5%）、6年生92.5%（県64.4%）と県平均を上回っており、学習習慣が定着している。
- ・「1日あたりテレビ、ゲーム、DVDの時間が2時間以上」の回答では、5年生が42.5%であり、家庭での過ごし方を考えさせていく必要がある。
- ・「読書が好きですか」の回答では、5年生87.9%（県83.2%）、6年生82.5%（県77.8%）であり、質の向上を図りたい。
- ・地域行事への参加率は、県に比べて高く、地域とのつながりも強く、自己肯定感も高い。「人の役に立つ人間になりたい」と回答した児童は5、6年ともに100%であった。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- ・「授業づくりステップ1,2,3」のステップ3を目指して授業づくりを行うことを本年度の重点目標に掲げており、「授業改善チェックシート」を活用し意識付けや共通実践を確認した。**【授業改善の意識付け】**
- ・「何を問われているか」「着目する点はどこか」「文と文とのつながり」などがわかるように、問題やノートに書き込ませる指導が必要である。**【書き込み指導の徹底】**
- ・「読むこと」に課題があり、その対策として、「読書活動の充実」を掲げている。多読者を公表するなど読書活動の励行は行えているが、今後は読書の質の向上を図れるよう、ジャンル別読書の推進を図ったり、呼びかけの充実を行ったりしていく。**【読書活動の充実】**

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

- ・立腰教育を基盤にして、気持ちのよい「返事」「あいさつ」「言葉遣い」「話を聞く姿勢」「履物そろえ」を全校で実践させ、落ち着いた学習習慣と学習規律の向上を図る。**【学びの土台づくり】**
- ・朝の時間は月曜日の音読タイム、火、木、金曜日の「花まるタイム」と位置付けており、目的や実施内容を共通理解し共通実施することで、活気ある雰囲気と集中力を身につけさせている。また、地域の方に「花まるボランティア」として丸付けや声掛けをしていただき、効果的な活用をめざす。**【朝の時間の充実】**
- ・教員同士が指導法について学び合ったり、教材研究をしたりする時間をして「先生やる気タイム」「模擬授業研修」を確保し、共通実践と指導力向上を図る。**【教員相互の学び合いの充実】**

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

	国語		算数	
	5年時	6年時	5年時	6年時
H27 入学 現5年	61.1 (0.94)		66.1 (1.01)	
H26 入学 現6年	68.0 (1.02)	65.0 (1.01)	74.0 (1.04)	64.3 (0.98)
H31 正答率の全国比		(1.02)		(0.97)

◎5年時は佐賀県学習状況調査，6年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率，下段()は，県平均を1としての比較。

◎「H31 正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

【現5年】

- ・県平均と比較してみると，算数ほぼ同等，国語に少し課題が見られる。これは，4年時12月調査と同様の傾向と言える。

国語について

- ・「漢字の読み・書き」および「部首」についての設問に関して，正答率が高くなっている。日々の授業での取り扱いを丁寧に行ったことが，結果に表れていると考える。また，漢字や計算など基本的事項に関して全校での共通した取り組みを行ったこと，毎日の宿題等での繰り返しの指導を行ったこともこの結果につながっている。
- ・「話す・聞く」，「書く」については，正答率が低いものが多く，かつ，県正答率と比べて10ポイント以上の開きが見られるものがいくつかあった。与えられた情報を理解し，それに対する質問や意見を考えたり，理由を明確にしながらか文章を構成したりする部分を苦手としていることが分かる。文章全体の内容を把握し，求められていることに適切に対応することができるように，読み方を意識した学習を行う必要がある。
- ・「ローマ字」で書く設問では，正答率が低いことに加え無解答率が高いことから，まだ十分に定着していないと言える。普段の生活の中でも，意識的に触れさせる機会を増やす必要がある。

算数について

- ・観点別にみると，「技能」「知識・理解」に関しては，おおむね達成を越えている。習熟の時間を確保するだけでなく，補充の時間を設定し，学校全体として取り組んできたことの成果と言える。「考え方」については，県平均と同等ではあるが，十分達成との開きが20ポイント以上と大きく，本校の課題と言える。
- ・四則計算や公式を使って面積等を求める部分についての知識は，正答率が8割を越えるなど十分定着している。ただし，大きな数の位取りや単位の正答率が低い。実際にイメージしにくいものの量感をつかめていない。可視化できるような提示の仕方を考えたり，学習した内容と生活を結びつける活動を設定したりしながら，学習したことを生かす力を身に付けさせる必要がある。

【現6年】

- ・国語，算数ともに県平均と同等の状況である。昨年度と比べて大きな変化は見られない。

国語について

- ・どの領域も県および全国平均と同等の結果と言える。その中で、ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いる設問では、約 10 ポイント上回っている。逆に、話し手や書き手の意図を捉え、目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にしながらまとめる部分に課題が見られる。記述式の無回答率が他のものに比べると低い。得た情報に対する自分の考えをまとめ、構成しながら書くという機会を増やしていくことが重要である。

算数について

- ・領域別に見ると、「数と計算」では、県平均を 3 ポイントほど上回っている。きまりをきちんと理解して、与えられた計算に取り組む様子がうかがえる。「図形」に関しては、10 ポイント以上下回っている。特に、図形の性質や構成要素に着目し、ほかの図形を構成する設問の正答率が低い。念頭操作が十分できていないと思われるので、具体物の操作から念頭操作へと、図形に触れる機会を増やしていかなければならない。

【意識調査(5・6年)】

家庭での生活について

- ・朝食摂取率が高く、起床・就寝時間もきちんと決めている児童が多いことから、基本的な生活習慣が身についていると言える。児童および保護者に対して継続して行ってきた「早寝・早起き・朝ごはん」の呼びかけが、効果的であったと考えられる。
- ・平日の読書時間が 1 日 30 分以上と答えた児童が 66.6%と高く、県(40.8%)・全国(39.8%)を大きく上回っている。また、時間を見つけて図書室や図書館に行く児童の割合も高い。校内での多読者の称賛や家庭との連携の成果と考える。

地域との関わりについて

- ・「今、住んでいる地域の行事に参加していますか」という質問に対し、「している」と答えた児童が 80.9%と、県(77.4%)・全国(68%)を上回っている。また、「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」に対しても、「当てはまる」と答えた児童が 79.3%と、県(57.6%)・全国(54.5%)を 20 ポイント以上、上回っている。このことから、地域とのつながりの深さや、地域の一員としての所属感の高さがうかがえる。これまでの、地域、家庭と学校が連携しながら児童の育成への取り組みが結果として表れている。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

1 基礎基本の定着と活用力を育成する授業の実践

- ・「授業づくりのステップアップ 1・2・3 vol.1&2」を基本とした授業づくりに努める。特に、本校の課題を解決していくために、必要な条件や具体的な書き方などを示した上で、「書く活動」に取り組ませる。また、「めあて」を意識させ、それに関わるキーワードを使って、自分なりのまとめやふり返りが書けるような指導を行う。
- ・話し合い活動のバリエーションを増やし、場面に応じた活動にできるようにする。ICT 機器の効果的な活用も念頭に置き、全員が共通認識をもって話し合いに参加できるようにする。言葉だけでなく、視覚的にも確認しながら全体でのまなびを行う。

2 授業形態の工夫

- ・算数における基礎・基本の定着のため、指導法改善担当を中心に各単元についての教材研究を行い、少人数での授業と TT による指導を児童の実態および学習内容に合わせて選択していくことで、より効果的な学習を行う。

3 主体的な学びを促す環境の整備

- ・ 掲示物の場所に配慮し、学習に集中できるような学習環境を整える。また、活用力を育てるために既習事項や児童が身に付けなければならない学習用語をまとめ、教室に掲示する。大切な語句を確認するとともに、それを使いながら発言する意識をもたせる。

4 学び向かう態度の育成

- ・ 学習用具の確実な準備や時間を守ることを徹底させる。また、「挨拶、返事、言葉遣い」など、望ましい学習態度を身に付けさせるよう、全職員で取り組んでいく。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

- 1 朝の時間に行う「花まるタイム」で図形に対する感覚を身に付けることができるメニューに重点手的に取り組む。実施方法や内容について定期的に意見交換を行い、学力の向上につながるよう学校独自に改善を図っていく。
- 2 家庭学習の習慣化、また、主体的に学ぶ力を身に付けさせるために、自主学習に取り組ませる。予習・復習の仕方を学年に応じて再度指導を行ったり、メニューの紹介をして取り組む内容の幅を広げさせたりすることにより、考えて学ぶ力や習得した知識や技能を活用する力を育成する。
- 3 毎月1日の「ノーテレビ・ノーゲーム」について実施を継続するとともに、家読の推奨（毎月1日）を引き続き行う。